

株式会社 構造ソフト

今月のイチオシ

2017年3月号

新製品および拡張情報

新製品 「BUILD.積算Ⅱ」(Ver.1.00) …P1
 関連情報 「BUILD.壁式Ⅳ+」(Ver.1.55) …P6

Q&A (適判等からの指摘事例)

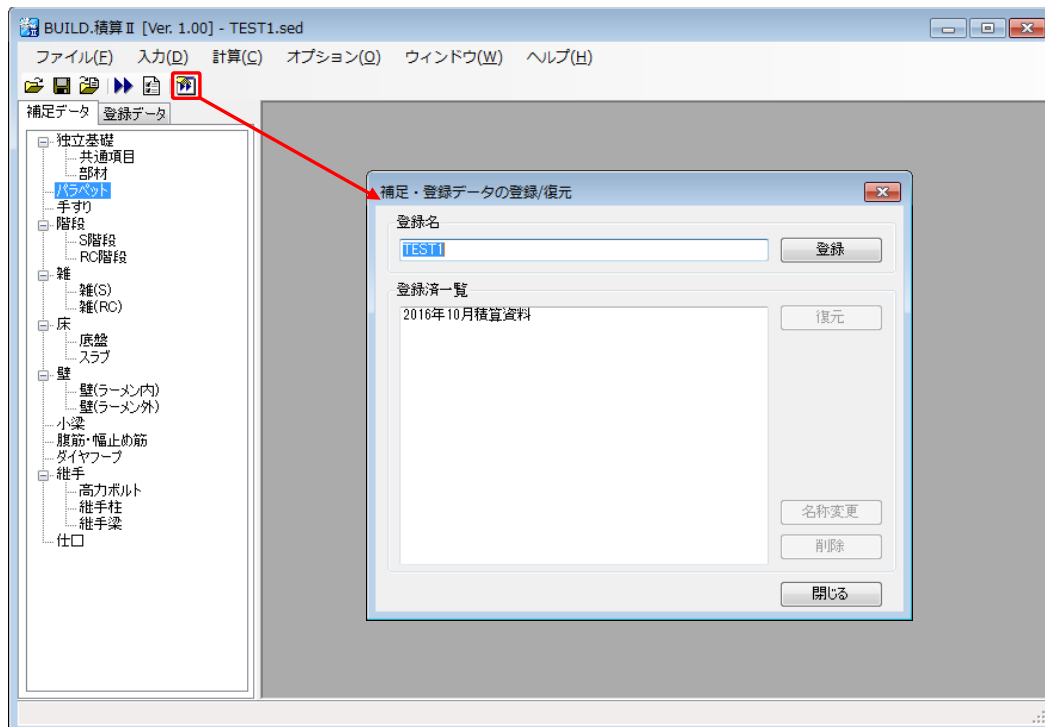
「BUILD.一貫Ⅴ」Q&A …P7

◆「BUILD.積算Ⅱ」(Ver.1.00)

・補足データと登録データについて、よく使う内容に名前をつけて登録することで、別の物件で復元して再利用できるようにしました。

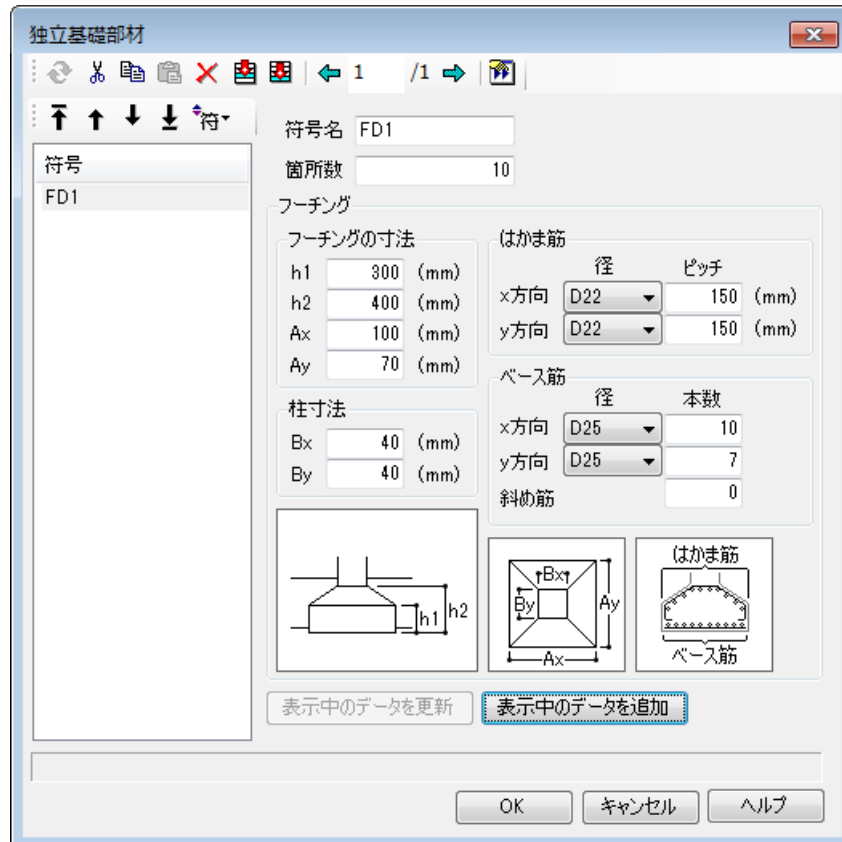
「BUILD.積算」では、データをリンクする度に「補足データ」と「登録データ」を全て入力していただいていたおり、ご不便をおかけしていました。

「BUILD.積算Ⅱ」では、一度データを登録しておけば、「①データリンク後、②物件を開いて、③登録済みのデータを復元」の3ステップでデータを作成できます。また、同じファイル名であれば一度入力した補足データと登録データはそのままにして2回目リンクできます。



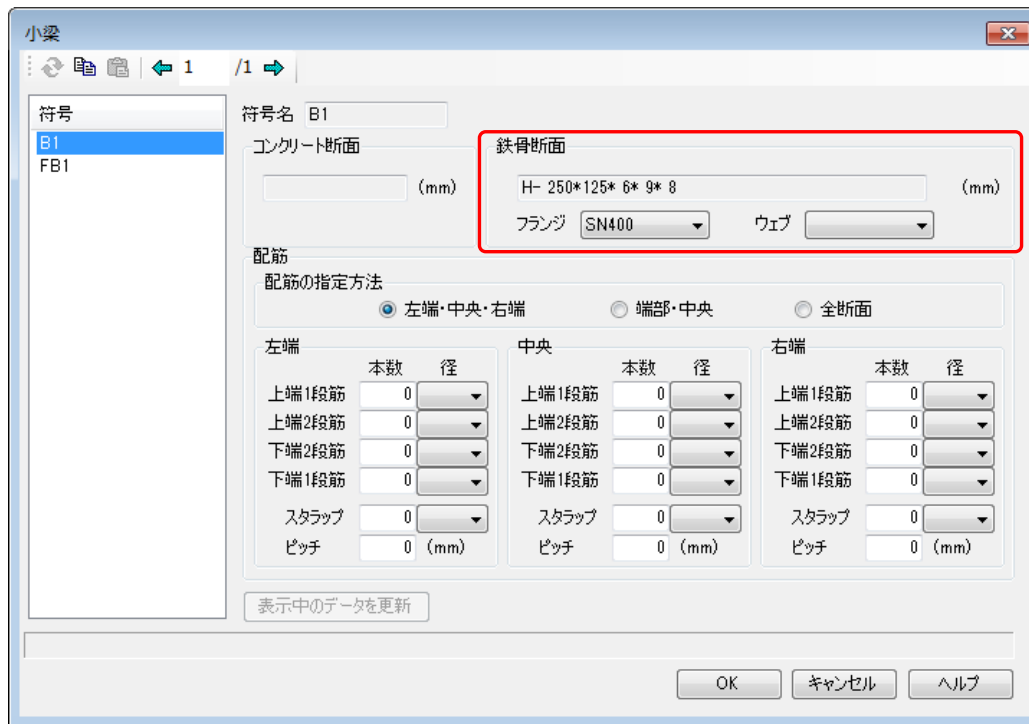
・補足データの入力画面で、データのコピー、追加、削除、挿入、並べ替え、符号名の変更等の操作性を改善しました。

独立基礎、パラペット、手すり、階段 (S/RC) 、雑 (S/RC) データを入力する画面において、データのコピー、追加、削除、挿入、並べ替え、符号の変更をやすくしました。また、小梁、スラブ、壁、継手大梁、継手柱についてはデータを選択やコピーをやすくしました。補足データの入力画面には凡例図を設け、入力する長さ等を分かりやすく工夫しました。



・補足データで小梁の鉄骨材料を変更できるようにしました。

小梁の鉄骨材料を小梁符号ごとに指定できるようにしました。

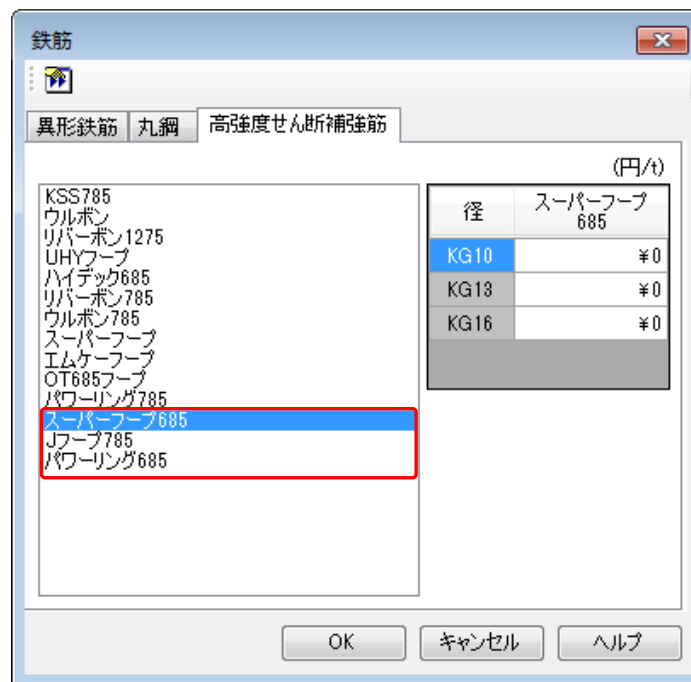


・鉄骨材種を増やしました。

増やした鋼種は、SUS304、SUS316、SUS304N2、STK400、STK490、BCP325T、SHCK490、SHC275_EN、SHC355_N、NBCP325EX、NBCP440、STKN400、STKN490、PBCP440、G385、LYP225、UBCR365、JFE_LY225S、JBCR295、HBL_H355 です。

・スーパーフープ 685、Jフープ 785、パワーリング 685 を扱えるようにしました。

「BUILD.一貫V」でスーパーフープ 685、Jフープ 785、パワーリング 685 を使用した場合は、「BUILD.積算II」にリンクされます。



なお、スーパーフープ 685、Jフープ 785、パワーリング 685 を用いた設計に関しましては、メーカーの設計指針をご覧ください。

スーパーフープ 685 <http://www.kishi-kinzoku.co.jp/super-hoop685/>

Jフープ 785 <http://www.jfe-bs.co.jp/product/pdf/j785.pdf>

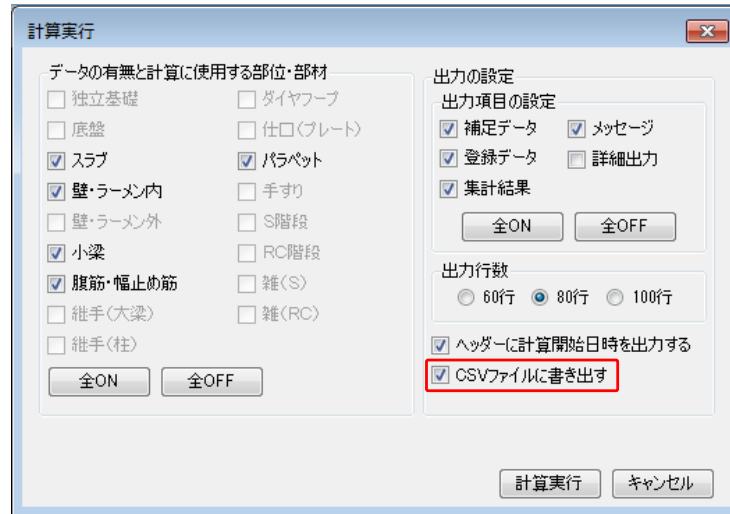
パワーリング 685 https://sabtec.or.jp/method_support.php

・副主筋に対応しました。

・芯鉄筋に対応しました。

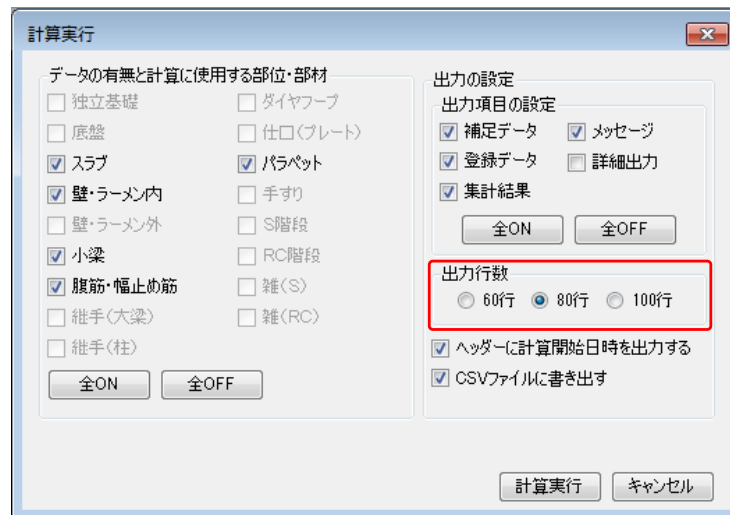
・計算結果を CSV 形式ファイルに出力する機能を追加しました。

部材別比率表、部位・階別集計表、部位別集計表、階別集計表、総括表、内訳書を CSV 形式ファイルに出力することができます。CSV 形式ファイルは「Microsoft Excel」等で表示することができますので、二次利用しやすくなります。



計算書の集計結果と詳細出力の出力行数を指定できるようにしました。

計算書のうち詳細出力は部材の数分出力している都合上ページ数が多くなりがちですので、100 行出力をご利用いただくことができます。



・計算書のヘッダーに日付を出力するかしないかを指定できるようにしました。

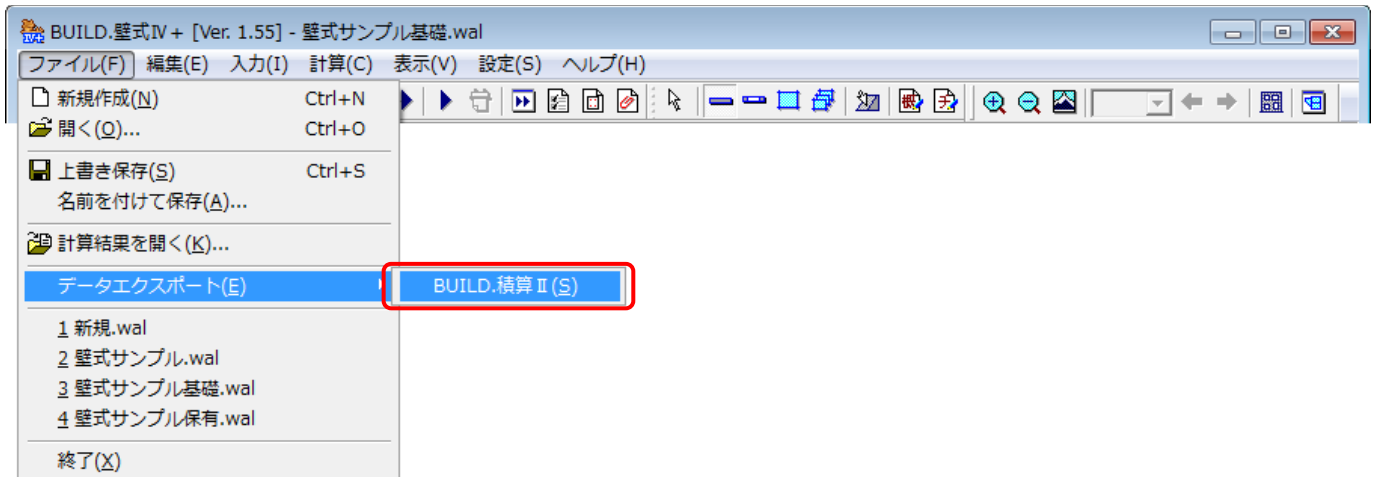
・【ファイル】メニューに、過去に開いた入力データのファイル名を 4 つまで表示するようにしました。

メニューを選択すると、その入力データを開きます。

◆「BUILD.壁式IV+」(Ver.1.55)

・「BUILD.壁式IV+」で設計した建物の積算を行えるようにしました。

壁、梁、スラブの形状と鉄筋を「BUILD.積算Ⅱ」にリンクします。「BUILD.壁式IV+」(Ver.1.55)以降をご利用下さい。



◆「BUILD.一貫V」Q&A (適判等からの指摘事例)

Q. S造で計算ルート1-2の場合に、継手は、SCSS-97標準リストより入力して計算したところ、検査機関より、継手の検査を行うように指摘を受けました。計算書には、「※ 破断強度の検査を行っていません」と出力されていますが、どのように対処すればよいでしょうか？

A. 許容応力度計算データの[DES4] (S造断面計算条件) の6項目 (梁-梁継手部強度の検査) を1 (行う) にして下さい。

計算ルート1-2のデフォルト (入力を省略した場合) は、2 (塑性化領域にある時のみ行う) の設定になるので、継手位置が塑性化領域にない場合は、継手の破断強度の検査は行いません。

許容応力度計算データの[DES4]の6項目を確認して頂き、入力が省略 (*) されている場合は、デフォルトの設定となるので、継手が塑性化領域内に無いために検査をしていないこととなりますが、1 (行う) にすることで、塑性化領域にあるかどうかは関係なく、検査を行うことができます。

[DES4] S造断面計算条件

DES4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	M
番号	項目		型	説明		省略時								
1	方向		A	'X': X方向架構 'Y': Y方向架構 'XY': 両方向		XY								
2	梁の上フランジの拘束		I	'1': なし '2': あり		1								
3	技術基準解説書による幅厚比の検査		I	'*': 自動設定 '1': 行う '2': 行う (S/N材緩和規定) '3': 行わない		(3)~(6)参照								
4	横補剛の検査		I	'*': 自動設定 '1': 均等間隔で設ける方法 '2': 端部に近い部分に設ける方法 '3': 行わない '4': 均等間隔がNGなら端部近く										
5	柱-梁仕口部強度の検査		I	'*': 自動設定 '1': 技術基準により行う '2': 行わない '3': 接合部設計指針により行う										
6	梁-梁継手部強度の検査		I	'*': 自動設定 '1': 行う '2': 塑性化領域にある時のみ行う '3': 行わない										
7	曲げ応力とせん断応力の組み合わせ		I	'1': 行う '2': 行わない		1								
8	崩壊形の判定値 α		F	柱梁耐力比の判定値		1.5								
9	露出型柱脚の保有耐力接合の判定		I	'*': 自動設定 '1': 行う '2': 行わない		(9)参照								
10	露出型柱脚を計算する際の直交応力の考慮		I	'1': 考慮する '2': 考慮しない		1								
11	ハイベースNEO工法 (Gタイプ)・スーパーハイベース工法のせん断耐力の検査方法		I	'1': 摩擦抵抗とする '2': 摩擦抵抗で耐力が不足した場合にアンカーボルトのせん断抵抗とする		1								
12	柱の圧縮フランジの支点間距離の取り扱い		I	'1': 節点間距離とする '2': 剛域長を考慮する		1								
13	柱の座屈長さ計算時の部材長の取り扱い		I	'1': 節点間距離とする '2': 剛域長を考慮する		1								

※ [弊社ホームページのQ&A](#)では、この他にも、適判等からの指摘事例のQ&Aを60件以上、通常のQ&Aを2900件以上掲載していますので、ご活用下さい。なお、Q&Aの閲覧には[サポート会員登録](#)が必要です。